

R06年度学校関係者評価（小学校）

学校評価（小学校）

教育目標（誠実な人、良き社会人の育成）

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆまぬ努力」を達成するために、教育活動全般において「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指す活動を行った。PYP・MYP認定校として建学の精神を具体的に10の学習者像として示し、生活・学習両面において日々の生活の中で取り組んだ。また、年間を通じて朝礼での理事長や学校長、先生方の話を通して、児童の意識の向上を図った。また職員会議では、毎回ドン・ボスコの予防教育法の研修を行い、教育理念を共有し取り組むことができた。	A	自己評価に同意
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、朝礼や学級の活動を通して、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。宗教行事だけでなく、カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。サレジオ家族の全世界共通の目標であるストレンナ「ドン・ボスコの夢、わたしたちの夢～9歳の夢から200年～」を合言葉に、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会、ドンボスコの集いなどを実施できた。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	プライマリー（1～4年）は、基礎基本の徹底を図っている。探究学習では、PYPユニットプランナーを作成し、教科の枠を超えたテーマのもと主体的に問題を解決できるようにして、10の学習者像に近づけるようにした。読むとくメソッド、英検Jr、ウイークリーテスト等サレジオメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、今年度から英語の時間を週3時間に増やしたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、ミドル5・6年生では、MYPユニットプランナーを作成し、学習を行った。MYPカリキュラムや評価の仕方を全保護者に配付し、全学年のユニットや評価を公開した。英語は新たな取り組みとして今年度よりフェーズ制を導入し、習熟度に合わせた言語習得学習に取り組んでいる。プログラミング学習や小論文メソッドも取り入れ、論理的思考が身につくようにした。PYP・MYPともに、年2回の保護者勉強会を開催し、理解を図った。今後、更に各ステージとの連携を図っていきたい。	A	自己評価に同意
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。プライマリーでは観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を「探究の記録」として記述したりしている。ユニットごとに総括的評価課題を設定し、学びの定着を図っている。ミドル5・6年ではIBの客観的基準に基づいて評価を行った。MYPの各ユニットの評価基準と課題を先行提示し、児童が要点を整理して学習できるようにした。またその結果をmanagebac上で確認できるようにした。英検Jr.テスト・読書診断指数、英検・漢検、CRTテストなどの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	A	自己評価に同意
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業と、その知識とスキルを使って思考・判断し、表現する授業を実施している。プライマリーの探究学習では、教科の枠を超え年間6つのユニット（単元）を設定し、セントラルアイデア（仮説）を立て、検証してきた。児童自身が主体的に学びに取り組んでいる。5・6年のMYPでは、教科の学習に力を入れ、全教科でユニットプランナーに基づく年間50時間以上の探究型授業を実施できた。その結果、PYP・MYPともに深い学びにつながり、思考・判断・表現力が培われてきた。一人1台のiPadも活かし、学習の蓄積が可視化されたり、他者との意見交流の助けとなったり、すべての教科で思考力を伸ばし学びと評価の蓄積につながっている。また、大型電子黒板やデジタル教科書等ICT機器を有効に使用しながら、授業の質を向上させることに努めた。児童の言語認知を伸ばすために、更なる授業改善を考えている。	A	自己評価に同意
6	授業研修	A	「価値教育」「探究学習」「言語認知」を3本柱にし、学園で一貫した研究目的を持ち研修した。年間を通じてすべての教員がステージをまたがり研究グループを作って授業研究を計画・実行し、効果を検証した。また年2回の公開授業週間では各校種の授業をお互いに見せ合い、意見を交換することによって授業改善に努めることができた。毎週学年ごとに教員間のミーティングを行い授業設計への理解を深めたり、全教職員で国際バカロレアについてより理解を深める研修を実施し、どのような効果があったのか検証し、実践につなげた。	A	自己評価に同意
7	学級経営	A	教員は学級の児童と共にいることを大切にし、教室は勿論のこと、運動場などの遊びの場面でも子どもの心をとる取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にとり対応している。学校だよりや学年通信をはじめ、お知らせをWEBで配信し、全家庭にできるだけ早く情報を伝えるようにした。また「コドモン」を通して保護者からの連絡事項も素早く受け取ることができ、迅速に対応している。保護者と情報を共有するように心がけている。	A	自己評価に同意

R06年度学校関係者評価（小学校）

8	生活指導	児童を正しく導くために教師が共通理解をもち、生活指導に取り組んでいる。	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。プライマリーでは学習と生活は一体化されているので、教員は常にアシステンツァを心掛け、日々の学習や生活の中で児童と向き合い取り組んでいる。児童に関することは、担任・主任・養護・教頭・校長で連携し、情報共有した。また、通学マナー等に関しても、集団下校グループを作り指導を行っている。JRの乗車マナーについては、今年度も何度かご指摘を受けた。児童の安全を守るため繰り返し指導を行ったり、下校時JR草薙駅に教員が交代で立ったり、児童の安全を見守っている。	A	自己評価に同意
9	進路指導	児童の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことにより児童の学習意欲も上がっている。ミドル5・6年生では、年間を通じ、保護者会にて進路説明を行い、7月には希望する保護者全員と進路面談を実施した。6月には6年生を対象に中学校授業・メソッド体験会を行い、中高の教員や生徒と交流しサレジオ中学校への理解を深めた。9月以降、担任の指導のもと自分の進路希望を熟考し、ワークシートにまとめた。オーストラリア研修後、6年生全員が保護者、担任とともに校長面談に臨み、自分の口で進路希望をしっかりと伝えることができた。	A	自己評価に同意
10	安全管理	児童の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	登下校時に校舎の入り口で学生証をかざすことで、登校下校時刻を保護者メールで配信し安全を確認している。また、登下校時には門に警備員を配置したり、ICカードによる門戸の管理を行い、安全管理体制を強化している。教員もJR草薙駅構内まで毎日送り、児童の安全面に配慮している。テニスコートに避難する防災訓練を実施したり、セコムによる防犯教室をおこなったり、防災防犯に関しても注意を促した。また、「防災カード」をWEBアンケートを利用して作成し、情報を一元管理できるようにした。熱中症予防として、暑さ指数計による測定を行い、過度の運動がないように健康管理をおこなった。PMCの保健室が連携し、ステージを超えて児童の心身の健康のために努めている。昨年度ご意見をいただいた運動会時の門扉の解放については、警備員を配置した。	A	自己評価に同意
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って任務を遂行している。各部ごとに連携を持ちながら取り組み、各分掌の部長がそれぞれ責任をもって運営をしている。IB教育研究所のリーダーシップにより、PYP・MYP研究、他ステージとの連携が促進された。	A	自己評価に同意
12	行事運営	校外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	3年～5年の宿泊学習、スキー教室なども実施できた。サレジオ祭、運動会、クリスマス会など多くの保護者の皆様と一緒に実施することができ、児童の喜びにつながった。6年生のオーストラリア修学旅行も昨年度に続き実施でき、ドミニカレッジとの交流を持つことができた。6年生にとっては、心に残る貴重な体験となった。今後も行事については内容を検討し、子供たちの発達段階に合わせて心に残る行事を実施していきたい。	A	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、教務、研究、生活指導など各部の部長が学園方針のもとリーダーシップを取って運営した。幼・プライマリー・ミドル・カレッジの各ステージとの連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	プライマリー棟では最新設備が整った環境で、児童は快適な学校生活を過ごすことができていく。電子黒板や背面側面のホワイトボード、後方の整理整頓できるロッカースペースなど、教室内の学習環境が整っている。非接触型のトイレや水道で、衛生的である。プライマリー棟とミドルをつなぐ通路は階段が長いですが、安全に行き来ができ、朝、業間、お昼休みと何度も運動場や遊具広場に行き遊ぶことができていく。ミドルでは、ラーニングコモンズやコミュニティスペースも活用している。4号館も屋上・外壁防水工事が行われ、雨漏りが解消された。4・5・6号館の外壁塗装も実施した。ただ2号館は少し古く見えてしまう。	A	自己評価に同意
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	ジョイクラブ、課外体育、スクールバンド等、児童の興味に応じて選択をし、年間を通して課外活動を行うことができた。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員が過ごし寄り添っている。また、放課後のレギュラードボ・スコラやイングリッシュドボ・スコラでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。ドボ・スコラでは、課外音楽教室やスイミングスクール、バスケットスクール、体操教室など習い事とも連携をとり、参加できるようにしている。	A	自己評価に同意

R06年度学校関係者評価（小学校）

<p>全般、総合評価</p>	<p>A</p> <p>プライマリー棟では整った環境の中、「整理整頓と創造」のコンセプトのもと教員も児童も活気をもって学校生活を行うことができた。PYP認定校として5年、MYP認定校として3年となり、探究型授業も定着し児童自身も学習の仕方が身についてきた。ICTの活用が急速に進み、児童が常にiPadをどの教科でも学習道具の一つとして活用している。急成長している生成AIをどのように取り入れていくのか、ICTの効果的な使用については模索していく。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ（共にいること）を常に心掛け、取り組んでいる。今後も教職員一同一丸となって取り組んでいきたい。国際バカロレアPYP・MYP認定校として探究学習を進める中で、国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組み、建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。</p>	<p>A</p> <p>先生方は子供たちをよく考えていただき、活動に取り組んでいただいていると思います。今後の活動において、外部に任せられるところは任せて（例えば水泳指導など）、先生方には大切な場面で力を発揮していただくと、負担が分散できるのではと考えます。</p>
----------------	--	---

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

学校運営から施設設備に至るまですべての項目において、高評価をいただいたことに感謝いたします。建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたいと思います。今後も学習面だけでなく、生活面においても一人ひとりに目を配り、きめ細やかな指導を心がけていきます。教員は、引き続き物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ（共にいること）を心掛け、実践していきます。国際バカロレアPYP認定校として4年、MYP認定校として2年が経ちました。PYPでは、4年次に行うExhibitionについて保護者の皆様から児童の探究の深さや発表について、1年時からの成長を感じられると感想をいただきました。今後も探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいきます。MYPIにおいては、総合的評価課題の評価について、更に分かり易く伝えるようにまいります。今後もPYP保護者学習会、MYP保護者学習会や保護者会、学校だより等を通して、なお一層保護者に学校の現状や建学の精神などをお伝えする機会を作ってまいります。